

令和4年度 東京都内湾水生生物調査 2月稚魚調査 速報

●実施状況

令和5年2月8日に稚魚調査を実施した。天気は晴れのち曇りで、気温は11.4~12.8度、調査地点の風は北寄り、風速3.5~4.0mであった。調査当日は中潮で、満潮は6時46分、干潮は12時33分であった(気象庁のデータ)。

いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	9:34-10:55	11:28-12:20	13:16-14:56
水温(°C)	10.5	12.4	10.6
塩分(-)	29.9	24.7	26.0
透視度(cm)	>100	86.5	88.5
DO(mg/L)	9.2	8.6	11.3
DO飽和度(%)	100.1	93.8	119.8
波浪(m)	0.1	0.2	0.1
pH(-)	7.9	7.6	8.1
水の臭気	無臭	弱魚臭	弱魚臭
備考		調査時、干潟は干出していなかった。	

●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	ピリンゴ(+)	アユ(c)	アユ(c)
	スズキ(+)	ウキゴリ属(r)	スズキ(+)
	チチブ属(r)	アシシロハゼ(r)	ヒモハゼ(r)
	アシシロハゼ(r)	ボラ(r)	
	アユ(r)		
魚類以外	ニホンイサザアミ(m)	ニホンイサザアミ(c)	ニホンイサザアミ(G)
	シラタエビ(+)	エビジャコ属(r)	シラタエビ(+)
	ワレカラ属(r)	クロイサザアミ(r)	ホトギスガイ(r)
備考	他にウキゴリ属、ボラ、ヨコエビ類、ヤムシ類が採集された。		他にイソガニ属等が採集された。また大量のカブクラゲが入網した。(調査対象外)

注) 表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100~1000個体未満、c:20~100個体未満、+:5~20個体未満、r:5個体未満

お台場海浜公園 採取試料



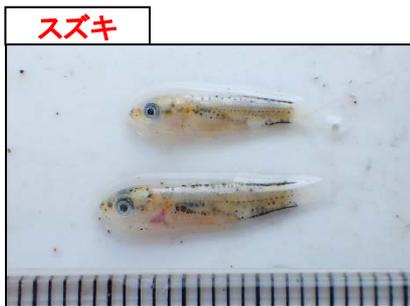
調査地点の様子



調査の様子

水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛: 1mm



東京湾を代表する魚のひとつ。ハゼ科の稚魚や甲殻類を食べながら急速に成長し、1年で20cm程になる。成長に伴いセイゴ→フッコ→スズキと呼ばれる出世魚。



夏から秋にかけて河川中流の砂礫底に産卵し、10日～2週間後に孵化する。仔魚は干潟周辺で3～4cmになるまで滞在し、その後、河川を遡上する。海で生活する間は体の透明感が強い。



産卵期は冬から早春で、稚魚は3～5月に干潟域に出現する。成長とともに川を遡上し、河川の中流から河口域で生活する。干潟域で見られる稚魚にはウキゴリとスミウキゴリの2種が混じっていることが多い。



チチブまたはヌマチチブの稚魚である。成魚ではチチブは河口域、ヌマチチブは中流から下流域に多くみられ、頭部の白斑の粗密等で区別されるが、稚魚では未発達のため見分けられない。



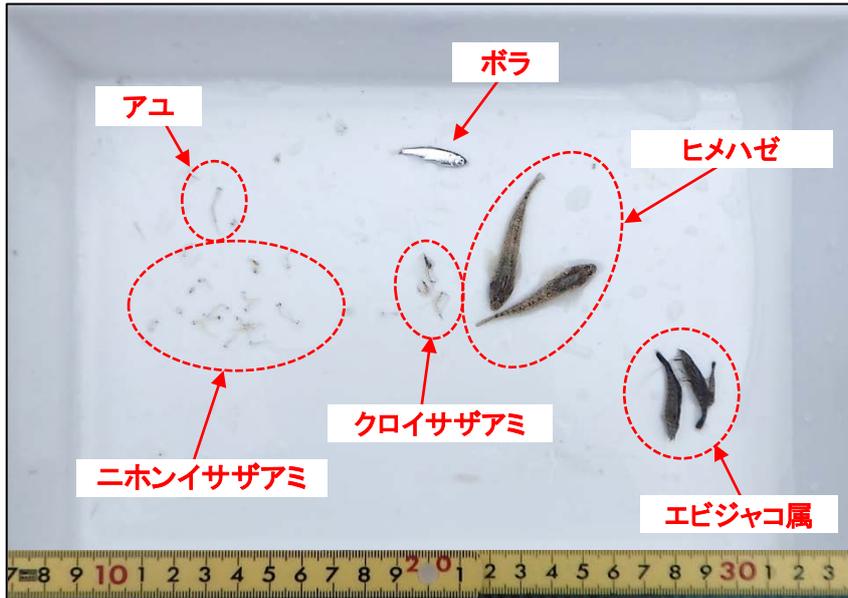
マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。早春にアナジャコ等の甲殻類の巢に産卵し、稚魚は成長するにつれて河川上流側に移動する。

今回、抱卵個体が採集された。



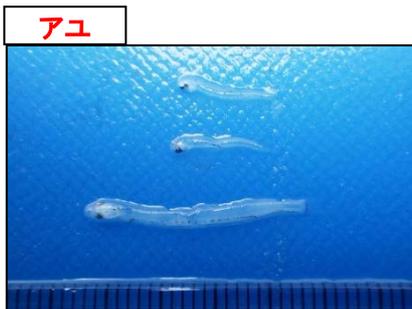
小型の甲殻類で、ヨコエビと近縁(端脚類)。海藻やアマモなどにくっついて生活しており、藻場を利用する幼魚の重要な餌となっている。

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。調査時、干潟は干出していなかった。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm



※解説はお台場海浜公園を参照。



※解説はお台場海浜公園を参照。
ウキゴリ属の仔稚魚は尾柄部に目立つ黒色斑がある。



全長 9cm 程になる。内湾や河口干潟域の砂底や砂泥底に生息する。体側のゴマ模様はアシシロハゼに似るが、ヒメハゼは下顎が上顎より突出していることで区別できる。



東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。スズキと同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。



稚魚等を捕食する小型の甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。



汽水域に生息するアミの仲間。ニホンイサザアミの体長は 10mm 程、クロイサザアミは 15mm 程になる。クロイサザアミは全体的に黒っぽく、腹部に黒色斑がある。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。

葛西人工渚 採取試料

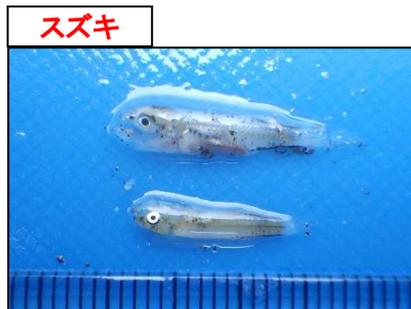


東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm



※解説はお台場海浜公園を参照。



※解説はお台場海浜公園を参照。



体はミズのように細長く、体側には暗色の縦帯が走る。全長 4cm 程。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を産卵場や隠れ家として利用する。主に小型甲殻類を食べる。



青い触角が特徴のエビ。額角の基部が盛り上がることで、スジエビ類と区別ができる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では体側に青色斑が現れることが多い。



砂泥底に生息するムラサキイガイの仲間。富栄養な海域では互いに足糸(そくし)を絡ませて集団で泥の表面を覆い、マット状になることが多い。



日本近海で最も普通に見られるクシクラゲ類(有櫛動物)。いわゆる「クラゲ」(刺胞動物)とは別の仲間。触っても刺されることはない。体は透明で柔らかく、壊れやすい。東京湾ではしばしば大量に出現する。

【調査対象外】